



2月号

平成5年2月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

びんと張りつめた空氣の中を
白いスタートラインにならぶ
肩で大きく深呼吸した君は
静かにピストルの合図を待っている

走る 走る
みんなの思いを
一本のタスキに託して 走る

走るというただそれだけの行為が
なぜこんなに人の心を熱くするのか

がんばれ まけるな
一心に坂を駆け登る君の背中に
友の声援が響く

がんばれ もう少し
ゴールに倒れ込んだ君を
友の拍手と冬の柔らかな日射しが
優しく迎えてくれる

<走る>



(パソコンタイム 美川中)

自然の中で、自然と共に



—教育隨想—

岡崎医師会長 杉浦壽康

「教育隨想」を書くことは、一小児科医に過ぎない者にとって、荷が重く躊躇いを感じる。しかし考えてみると、小児科医は、小児（子ども）の病気についての勉強と治療に専念するのみでなく、子どもの正常な発達をよく知つており、正常な発達を遂げるよう見守つてやることも、大切な務めである。子どもの発達を見守ることは、「教育」と決して無関係ではない。多くの小児科医は学校医としても、児童・生徒の健康管理と健康教育を通して、教育（学校現場）と深い関わりを持っている。

人間の飽くなき欲望は、科学技術の著しい進歩発展により、高度な経済成長を齎した。便利な日常生活、あり余る物資は、一見豊かな生活を享受しているような錯覚にさえ陥る。一方、科学技術の濫用は、遠い将来、人間の生存すら危うく

するであろう現象を生み出してしまった。森林伐採、オゾンホールに代表される「自然環境破壊」である。人類の歴史は、自然との闘いである、ともいわれている。科學技術を駆使して、果たして自然に勝ちつつあるだろうか。変幻自在の自然現象に、人類は今も全く無力であり、動かない自然の産物のみを、強引に変えているに過ぎない。自然と闘うのではなく、自然の中には、自然と共に生きるには、どうしたらよいかを考えるべきではないだろうか。

ここで考えなくてはならないのは、今日の「自然破壊」が教育と決して無関係ではないということである。わが国は、世界に類稀な平和憲法を有し、その理念の下に、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようと決意を示した。そして、「その

ここ数年、「心」を大切にする教育が呼ばれるようになったことは歓迎すべきことである。今こそ、自然を愛し、自然に感謝し、自然を大切にする教育がなされなければならない。

子どもを育てる、教育することも、子どもの自然な発達を充分に認識した上でなされるべきものではないだろうか。

「自然」と同じで、子どもの発達は、親（大人）の力で簡単に変えられるものではない。親や教師は、子どもの自然な発達の邪魔をすることなく、子どもを見守り、子どもたちが困難に直面し、援助を求めた時、子どもの自主性を損わないように注意しながら、援助（教育）の手を差し延べてやることが、眞の意味での「教育」ではないだろうか。子どもに接する機会の多い小児科医の戯言と思い、ご

うとする決意を示した。そして、「その」

「なんで、パソコンを使えないの。」と、生徒から文句が出る。

ある中学校のA先生は「コンピュータはどういうに使われているか」の授業で、生徒たちにいろいろ調べさせ、発表させた。とかく操作を教える場合、先生の方

育は「偏差値」人間を造り、独創性に乏しい個性の薄い人間を世に送り出し、一方において「おちこぼれ」「いじめ」「登校拒否」といった社会問題を惹き起す結果となってしまった。

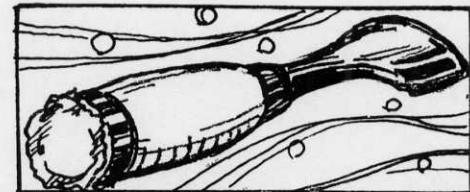
ここ数年、「心」を大切にする教育が呼ばれるようになったことは歓迎すべきことである。今こそ、自然を愛し、自然に感謝し、自然を大切にする教育がなされなければならない。

パソコンを生徒の手に
情報教育指導員
菅原秀美



ふるさとシリーズ

この人に聞く



仏壇彫刻

吉田
稠
氏

通産大臣指定・伝統工芸品の三河仕打を
に携わって三十六年という吉田稠氏を岡
崎公園西側にあるご自宅へ訪問した。
お父さんの代から始めたこの仕事を
を、二十五歳で引き継がれたとのこと。
「おやじ自身は、私を後継ぎにするつも
りはなかつたようでした。旧制中学に
行かされ、サラリーマンをやつていた
んです。日曜日に父親の手伝いをして
いた時には、配達先の顔見知りの仏壇
屋さんに後を継ぐように言われたりし
ました。小さい頃から父の仕事ぶりを
見てきて、それほど嫌いではなかつた
ですし、気を遣つてサラリーマンをし

「まず、あぐらをかいて一日座る事から始めました。朝の八時から夜の七時、八時まで長時間座っている事になれるのに大変でした。腰が痛くなるし、体がとても疲れます。技術的には、たゞねにまつすぐに筋をつけられるようになるのに三年はかかりますね。三年かかるって、やっと下仕事ができるようになりますよ。」

お話をされる横顔を見ていると、何を言ふにも、そう簡単には力はついていかないことが、実感として伝わってくる。仕事に対する信条は、「自己満足ではなく、相手が喜んでくれること」。これは職人としての具体的な心構えだそうだ。

「職人というのは、考え方がかたいものです。それは間違っていると思うんですね。意外と素人の方のほうが、正しい見方ができる場合もあるんですね。その角度から作品を見直してみると、自分自身の技術の向上にもなるのです。職人仲間は、考え方がどうしても狭くなってしまうので、話し合いによる情報交換がとても必要ですね」

長年、職人として生きてこられた真摯

お話をされる横顔を見ていると、何をやるにも、どう簡単には力はついていかないことが、実感として伝わってくる。

かつて、やつと下仕事ができるようになるんです。」

がとても疲れます。技術的には、たがねにまつすぐに筋をつけられるようになるのに三年はかかります。三年か

始めました。朝の八時から夜の七時、八時まで長時間座っている事になれるのに大変でした。腰が痛くなるし、体

ますよ。」
修業のご苦勞について、お聞きした。

ているより、お山の大将で、家の仕事をするのも良いと考え、転職を決めました。父も、本心は喜んでいたと思いま

な話しぶりに思わずうなずいてしまう。
最後に今後の抱負について語られた。

から一方的になるものである。しかし、この授業では、自分たちの調べたことを発表し、パソコンの操作を説明する。



氏名
生年月日
住所
岡崎市板屋町百四十一
昭和五年五月二十六日

物は、技の冴えとこれまでになる苦労がにじみ出ているかのように、輝いて見えた。

これはどんな職業でも同じではないでしょうか。」

良い品物をこれからも、たくさん作っていきたいと思っています。そして何と言つても健康で、元気が一番です」と

最後に今後の指負について語られた。

「パソコンを生徒の手に」を合言葉にして活用に励んでいる多くの学校がある。新しい授業展開ができるのではないか、生徒が新しい方法でものを考えることができるのはないかと、その未来に賭けて実践を進めている先生方がいる。いずれにしても、一所懸命に学習しようとする意欲のある生徒がいて、その生徒を教えようとする意欲のある先生がいる。そこにコソンという新しいものが入つても、壊れずに存在している。

本年度中に、全中学校にパソコン教室の導入が完了する。いよいよ、本格的に利用される土壤ができた。

容を、思い出しながら発展させ、工夫をして創造的に活動していた。こまやかな配慮を察することができた。

とパソコンに向かっていた。しかも一人一台が効果を發揮し、二人のコミュニケーションが図られている。教えられた内

また、ある中学校のB先生の「プログラムをしよう」の授業では、生徒が活発に活動をしていた。どの生徒も生き生き

説をするのが生徒なら、それを試すのも生徒。その脇では、先生が完全に援助している。

【推薦する専門書】

【情報教育に関する手引き】ぎょうせい 『二十一世紀に向けた

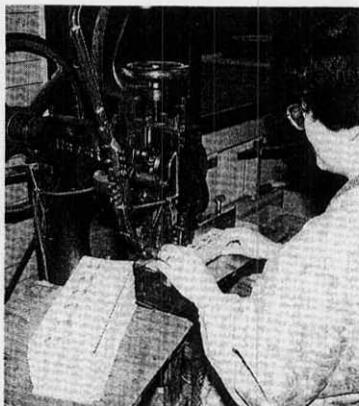


製本

そこで、今回は、市の製本業組合の組合長をしてみえる光岡さんの事業所を訪ね、その現状を取材した。

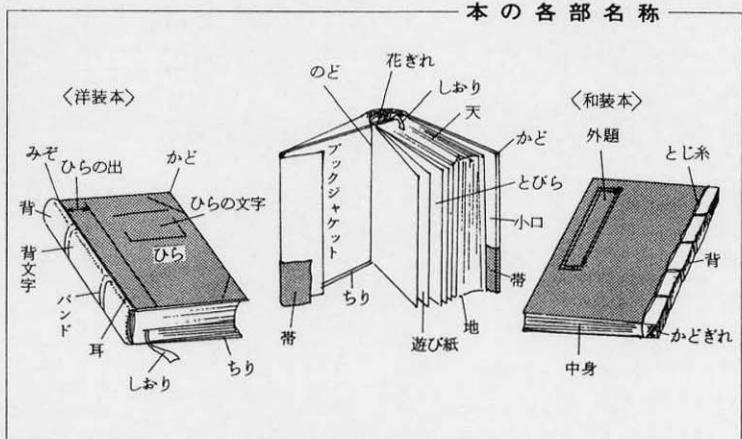
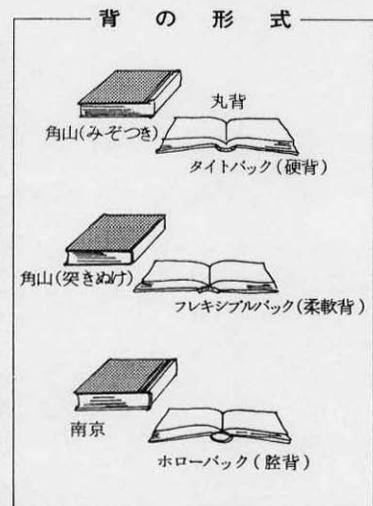
① 紙揃え …… 紙を揃えたり折つたりする。
 ② 丁合 …… 揃えた紙をページ毎に組む。
 ③ 製本 …… 表紙をまき、本にする。
 ④ 裁断 …… 四方を裁断し、大きさを整える。

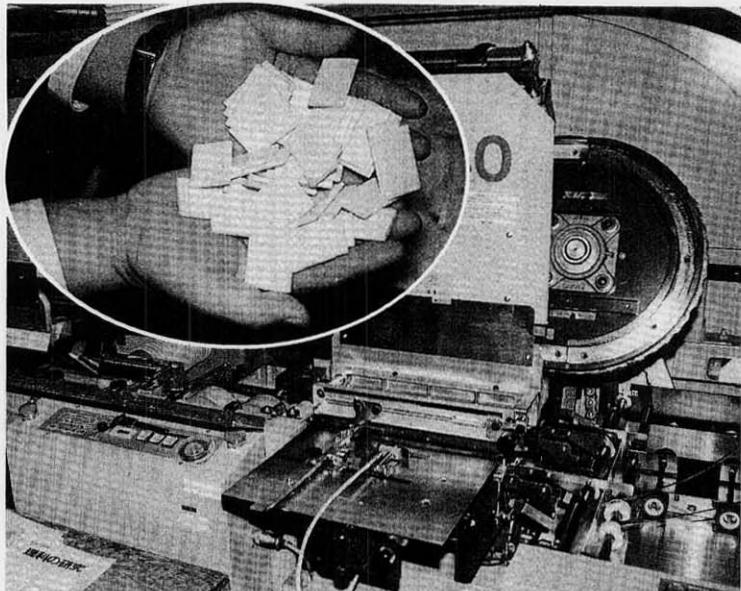
その他、注文があれば、ミシン目をいれたり、角を丸めたりする装飾などもする。どの工程も、作業は全て機械化されている。とじ方は、ほとんどが「無線とじ」であり、特殊なとじ方を扱っている業者は少ない。注文は多く、一日に、約二千冊の製本をするとのこと。特に、年度替わりの時期が一番忙しいそうである。二十年前は市内六社であったが、現在は十一社。このあたりにも、今日の出版ブームがうかがわれる。



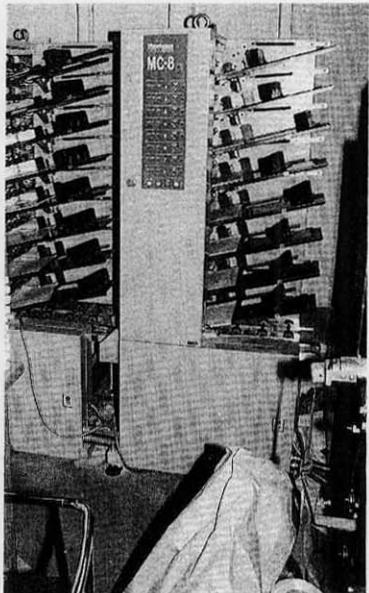
▲ 伝票などは針金を使ってとじる。

今日、私たちの目の前には、多くの本が出回っている。小説、隨想、評論の一般書籍から専門書、雑誌漫画、週刊誌など、その内容は多種多様である。また、学校でも、年度末には一年間のまとめとして、文集や研究紀要などが発行される。ところが、こうした本がどのように製本されているのか、ということについては意外と知られていない。

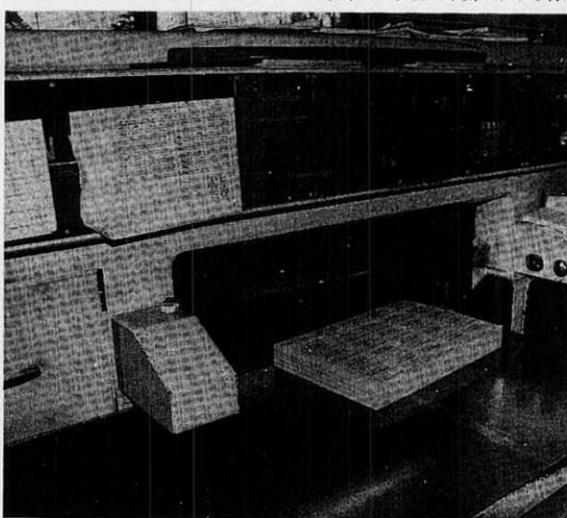




▲ 製本機。右に表紙、左に文書を置いて製本する。上の写真のような特殊なおりを使う。

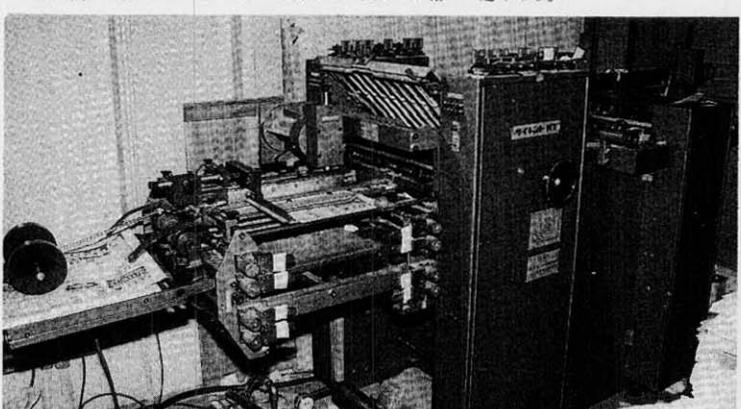


▲ 丁合機。自動的にページ順に紙を組む。

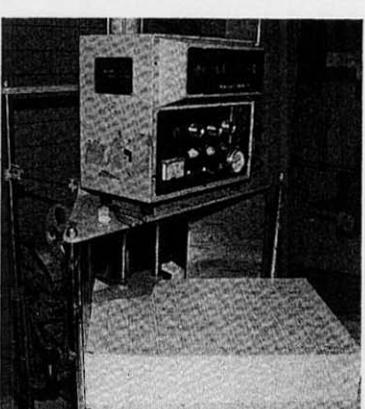


▲ 裁断機。寸法はコンピュータに入力され、大きさは常に一定である。

| ▶ 製本の種類 | |
|------------------|---|
| 洋 製 本 | 上 製 本 くるみ……表紙にみぞがある「みぞつけ」、それのない「突きつけ」、表紙を柔軟にした「薄表紙」がある。 袋 丁……総革、半革、背革、角背革、クロス等がある。 |
| 中 華 製 本 | 南京 製 本 上製本と並製本の中間、教科書の製本に見られる。 |
| 中 華 製 本 | 並 製 本 くるみ……雑誌の例。中身をとじ、その上から紙でまとく。 切りつけ……中身と表紙を針金でとじ、クロスで背をまとく。 中 と じ……表紙の背から中央ページにかけて糸等でとじる。 |
| 中 華 製 本 | 無 線 と じ 針金や糸を使わず、接着剤だけで中身の背をくっつける。 |
| 中 華 製 本 | ぶっこぬき 太い糸で、本の中身の背に近い所をぶっこぬいてとじる。 |
| 和 製 本 | 卷 子 本 巻き物 |
| 和 製 本 | 袋 と じ 文字を外側に向け、背の上下に角布をつけ糸でとじる。 |
| 和 製 本 | 唐本仕立て 細い糸を2本使う。表紙は真二つに折り、天地や背は離す。 |
| 和 製 本 | 大和 と じ 数枚の紙を束ねて二つ折り、折り目をとじて一帳とする。 |
| 和 製 本 | 折 本 習字の手本、画帳等に見られるとじ方。 |



▲ ミシン機。手で切り取れる目を入れる。



▲ チラシなどの枚数を自動的に数える。



チャボはみんなの友だち

細川小　後藤　哲人

授業中、テレビの上の箱の中

から、

「コケコッコー」

と、教室中響きわたる大きな鳴

き声が聞こえてくる。くちばし

を天井に向け、喉に何本もの筋

を浮かび上がらせて必死に鳴く。

その横では、めんどりが何も

無かつたかのように目をきょろ

きよろ動かしながら、子どもた

ちを見ている。

子どもたちは、おんどりの鳴

き声につられたかのように大き

な声で教科書を読んでいる。

子どもたちは、今、二年生。

一年生の六月から飼い始めたチ

ヤボの鳴き声は、すでに耳慣れ

視いてから飽きてしまう。小屋は

教室の中に置いてある。

私が今まで本校で担任したクラ

スの中で合唱コンクールで入賞

したのは、開校年のクラスの

一回だけ。それだけに今年はな

んとしても賞を取り、六年越し

「次は、何班だよ」

と、だれも言わなくても、次の

係の子が世話をしている。

チャボを育てるにより、

子どもも私も、命の尊さを教え

られた気がする。

優勝を果たすなど、ほとんどの

何事にも全員が真剣に取り組む。

私は、こんなクラスをとても気

に入っている。

実行委員を全員が支援し、全

員が朝夕の練習に専念した。い

つては、練習を進めた。担任

の私が偉そうに指導したのは「心

を込めて歌おう」ということだ

けであった。

いよいよコンクール当日。

わがクラスは四番目。海の不

思議」を生徒たちは、精一杯歌

つてくれた。私は、写真係の仕

事を忘れて、ステージの下で一

心にリズムをとつていた。

結果は、優良賞。この上なく

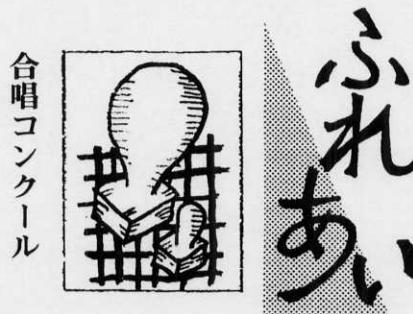
が聞こえてくる。合唱コンクー

ルでの入賞を目指しての取り組

みに熱が入ってくるからである。

私は、毎年四月の学級開きの

際、決まって「合唱コンクール



合唱コンクール

竜南中 小島 英樹

毎年十月になると、朝な夕な

にあちこちのクラスから合唱

が聞こえてくる。合唱コンクー

ルでの入賞を目指しての取り組

みに熱が入ってくるからである。

私は、毎年四月の学級開きの

際、決まって「合唱コンクール

本当はクラス全員の手を

とり、たたえてやりたかったが、

それはできなかつた。合唱コン

クールは、一つの賞をクラス全員

の心と力で勝ち取るところに良

さがあり、ここで入賞することで

クラスの雰囲気が大きく変わる。

だから私はこれに賭けていた。

A子は、二学期の思い出の一

番に合唱コンクールをあげ、文

章に綴つてくれた。

「優良賞八組と言われたあと、

先生にポンと肩をたたかれた

ときの感動は今もはつきりと

覚えている。本当に本当に涙

が出てるくらい(正直なところ

絶対忘れません)」

このときのことは、私も絶対

に忘れない。

いよいよコンクール当日。

わがクラスは四番目。海の不

思議」を生徒たちは、精一杯歌

つてくれた。私は、写真係の仕

事を忘れて、ステージの下で一

心にリズムをとつていた。

結果は、優良賞。この上なく

嬉しかつた。私は涙をこらえな

がら、一生懸命に伴奏をしてく

れたA子と指揮者のN子の肩を

| | | | | | |
|-----------------------------------|--|--|--|--|--|
| ◆県中学校長距離競走大会 | 男子の部 二位 東海中 女子の部 優勝 矢作北中 | 愛宕小 一年 増本由香 美馬友輝 | 脇坂宏樹 美作北中 三年 濱石華乃子 | 葵中 三年 杉山 勝昭 清水 祥明 | |
| ◆第十七回名古屋港を描いた作品コンクール | 特選 小豆坂小 五年 市川 証 優勝 矢作北中 | 愛宕小 一年 増本由香 美馬友輝 | 梅本恵太 猪飼耕太郎 鈴木三香子 竹内尋子 中根潤子 林智佳子 大門小 六年 小栗美智子 梅園小 六年 大川 智也 | 細川小 六美中部小 大樹寺小 三木世紫枝 星野 雄太 太田 苜子 中田真奈美 渡辺 誠 | |
| ◆県中学新人バレー大会 | 三位 東海中 優勝 竜南中 三位 矢作北中 | 愛宕小 一年 増本由香 美馬友輝 | 梅園小 六年 大川 智也 | 葵中 三年 池谷 勝昭 清水 祥明 | |
| ◆県みどりの少年団活動発表結果 | 上地小 四年 別所 猛 愛宕小 五年 宮崎真澄 根石小 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 上地小 四年 別所 猛 愛宕小 五年 宮崎真澄 根石小 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 上地小 四年 別所 猛 愛宕小 五年 宮崎真澄 根石小 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 上地小 四年 別所 猛 愛宕小 五年 宮崎真澄 根石小 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | |
| ◆第十九回全国小・中学生作品コンクール | 入選 連尺みどりの少年団 ・愛知県緑化推進委員会長賞 ・教育研究所) 算数・數学科部門 優秀賞 | 愛宕小 二年 真木寛子 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寛子 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寛子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 東海郵政局長賞 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 |
| ◆第二十回自作OHP・TP作品入選者(主催県教育サービスセンター) | セントア | 矢作北小教頭 伊藤 清 梅園学区・六名学区 優良少年消防クラブ指導者 梅園小 六年 大川 智也 | 梅園小 六年 大川 智也 | 葵中 三年 池谷 勝昭 清水 祥明 | |
| ◆品入選者(主催県教育サービスセンター) | セントア | 矢作北小教頭 伊藤 清 梅園学区・六名学区 優良少年消防クラブ指導者 梅園小 六年 大川 智也 | 梅園小 六年 大川 智也 | 葵中 三年 池谷 勝昭 清水 祥明 | |
| ◆第十一回全国小・中学生団活動発表結果 | 入選 連尺みどりの少年団 ・東海郵政局長賞 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 |
| ◆共同研究の部 | 三位 東海中 優勝 竜南中 三位 矢作北中 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 | 愛宕小 二年 真木寨子 根石小 二年 真木寨子 羽根小 一年 三浦允充 鳥井加奈 矢作南小 六年 稲垣智宏 愛宕小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 連尺小 二年 羽矢成臣 竜美丘小 名倉 嘉章 水野 順子 鈴木 敬子 権田 教子 近藤 浅井 君枝 文彦 阿部 阿部 芳枝 充子他 高橋由美子 鈴木 尚子 阪野 阪野 西田 貴子 杉本 純子 酒井 幸子 幾子 |
| ◆最優秀に音楽授業研究部 | 表された。本年度も最優秀を始め優秀3点、佳作8点と多数の入賞を果たし、岡崎の教育の確かさを県下に示した。 | 梅園小 五年 市川 証 美合小 三年 金沢アリス 愛宕小 一年 増本由香 梅園小 五年 小豆坂小 | 梅園小 五年 小豆坂小 | 葵中 三年 池谷 勝昭 清水 祥明 | |
| ◆最優秀に音楽授業研究部 | ◆第十六回愛知県教育研究論文審査の結果が去る十二月十三日発表された。本年度も最優秀を始め優秀3点、佳作8点と多数の入賞を果たし、岡崎の教育の確かさを県下に示した。 | 梅園小 五年 市川 証 美合小 三年 金沢アリス 愛宕小 一年 増本由香 梅園小 五年 小豆坂小 | 梅園小 五年 小豆坂小 | 葵中 三年 池谷 勝昭 清水 祥明 | |



(平成四年十二月末現在)

交通事故はいつこうに減る気配をみせない。昨年度市内の交通事故死者数は、残念ながら県下ワーストワンを記録した。交通事故防止は急務となつてゐる。

・表紙写真

美川中

近藤康雄

冬の職員室でその一角を独占していた石油ストーブも、今や天井に組み込まれた冷暖房兼用のエアコンにとって替わられる時代になった。生活様式の変化に伴い暖房器具も変化してきた。写真の火ばちは二十年前程まで民家で使われていたものである。火ばちは昭和四十年頃まで暖房器具の王様であった。学校でも宿直室で使われていた。

古くから、日本の室内暖房はいろいろが用いられていた。ところが、平安時代に入るとい殿造の宮廷、邸宅では煙とすすを

代わりに、桶や櫃に土製の火盆を置き、これに焼を入れて暖をとつた。これが火ばちの初めである。その後、本来、金属製鍊用の燃料であった木炭が暖房用燃料として一般的に利用されるようになり、煙とすすの出ない生活が一層進んだ。ことに、近世に入つてからは、都市の発達にあわせて家庭燃料を薪だけに求めることが困難となつたこともあり、火ばちが広く民間に普及していったとされている。



矢作中郷土資料室蔵

火 ば ち

依然として多いようである。
何のために進学するのか、じっくりと
考える必要がありそうだ。本人はもちろ
ん、周りの大人も……。

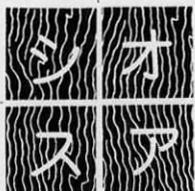
しらじらと夜が明けるまで、勉強に励む受験生……今年も受験シーズンとなつた。忙しい毎日を送る今の子供たち。

煙を運んだ十能、炭火をかき混ぜた火箸、鉄瓶をのせた五徳。火ばちから連想される道具。今はもう、家庭でほとんど見ることはない。

子供の頃、これらを使って餅を焼いた。砂糖醤油の滴が真っ赤な炭火に落ちる。香しい臭いが茶の間に広がる。火ばちを見て、昔を懐しむ。

以上に大変なのは取材される側である。慶事の喜びは万人共通。祝意の表し方は人それぞれ。今日では、遠くから温かい眼差しでそつと見守る祝い方は少数派か。

すぐそこまで来ている卒業式。
少ない時間を惜しむように一つひとつ
の行事に取り組む生徒の姿が
目につくようになってきた。



| | |
|------------|-------|
| *めぐりあいしんびと | 堀田 善衛 |
| 集英社 | ¥1200 |
| *母 よ | 青野 聰 |
| 講談社 | ¥1300 |
| *旅の詩集 | 寺山 修司 |
| 立風書房 | ¥1200 |
| *まわり道 | 秋山ちえ子 |
| マガジンハウス | ¥1300 |

えと
干支セトラ、etc. 奥本大三郎
岩波新書 ￥ 580

仏文学者である著者は、昆虫の研究家としても知られている。

十二支をはじめとする様々な動物を登場させながら、随所に隠し味、含み味を潜ませ、著者ならではのウイットに富んだ博物誌、文明批評を展開している。良質で軽妙な語り口は、読者を魅了してやまないだろう。

諸橋轍次著「十二支物語」は、博引旁証のおもしろさで知られているが、両書を合わせ読むのも一興である。